

ホタルのニュースレター

日本ホタルの会 2008/4 第44号

ミズーリのホタルとアメリカ人

日本ホタルの会理事 渋谷桂子

「欧米人はホタルのような昆虫にあまり親しみを持っていない。」そんな風に思っている日本人は少なくないと思います。実際はどうなのでしょう。セントルイス(ミズーリ州)に住んでいた時、ミズーリに住むアメリカ人のホタルに対する認識や行動について見る事ができたので、その一部を紹介したいと思います。

ミズーリの湧水地群や鍾乳洞のある川には100種もの魚類が棲み、その森には猛禽類やプレーリー特有のワイルドフラワーなど多くの希少種や絶滅危惧種が生息しています。これらの森には、黄緑色の強い光でクリスマスツリーの様に光り、他のホタルの光を真似て誘引し食べてしまう大型のホタルや、炎のように赤っぽく光る小型のものといった昼行性、夜行性あわせて10種近くの様々なホタル

を見ることができます。

しかしミズーリでは郊外の森に足を運ばなくても、アパートの庭でも夏の夕方にはホタルの光を楽しむことができます。

アメリカのホタルは、日本のゲンジボタル

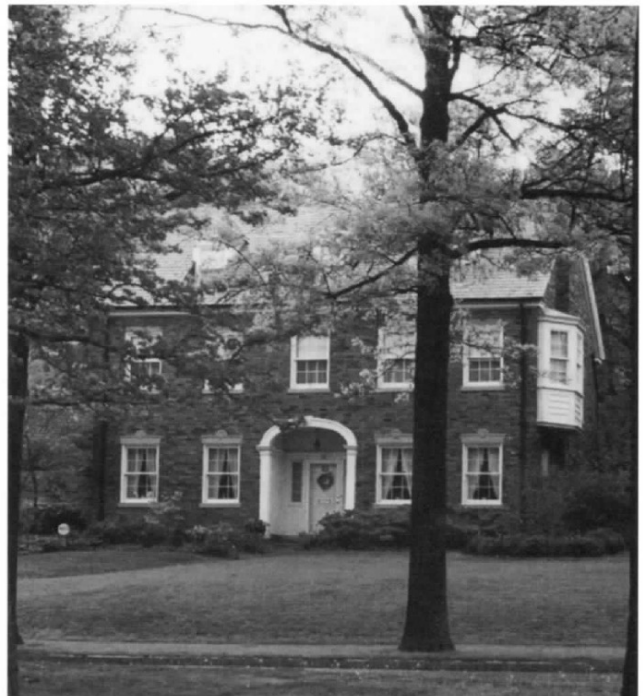


写真1 セントルイス郊外の住宅街

写真2 *Photinus pyralis* (L.)

やヘイケボタルと異なり水生ではありません。生息域においては公園などの芝生や緑地、庭などで日常的に見ることができます。

日本人は、ホタルというと「川」「田んぼ」といった水と関わりの深い生物として捉えますが、実は世界のホタルの殆どは陸生です。セントルイスのホタルも陸生です。セントルイス郊外にあるワシントン大学のキャンパス内でも芝生の上を飛び回っていますし、家の庭にも飛んでいます。せせらぎがあるわけではなく、芝生の貼ってある庭(写真1)を光りながら飛んでいます。このホタル(写真2)はまだ日が沈む前の薄ら明るい時間に飛翔して、日が暮れる頃まで明滅飛翔します。連日30度を超す蒸し暑さのなかにあって、夕暮れどきの涼しい時間帯と重なっているため、アパートの前庭にイスを出してビールを飲む人、犬や子供と散歩する人、ジョギングする人など多くの人が行き交っている時に、それ

らの傍らを瞬きながら飛んでいます。

果たしてここに住むアメリカ人にホタルの存在はどれほど認知されているのでしょうか？忌み嫌われているのでしょうか？無関心なのでしょうか？そんな疑問をもって近所の人に尋ねてみると、異口同音に「この辺りは沢山いるよ。」「とても綺麗よね。」「好きだね。」「小さい頃はよく捕まえて遊んだよ。」そんな答えが返ってきました。これだけ飛んでいるのだから当たり前といえば当たり前なのですが、新鮮な驚きでもありました。

複数の小学校や大学でホタルに関する意識調査を行ったところ、いずれの学校でも大抵の子供が「ホタルを捕まえたことがある。」「触ったことがある。」と答えていました。ホタルで遊んだ思い出を尋ねた質問には「ジャム用の大きな瓶に沢山のホタルを入れて夜ベッドの脇に置いて眺めて、そして翌朝放してあげた。」という答えが非常に多く見られました。ここに飛ぶホタルは人々に認知されているだけでなく、興味の対象でもあることがよくわかる結果です。一度、ダウンタウンの小学校でホタルの講演をする機会がありました。ここに通う子供達は貧困家庭が多く、玄関に無数の銃弾の跡があるような家に住み、文具も学校から借り受けているという経済的にはあまり恵まれない子供達の通う学校です。しかし、「オスとメスの区別の仕方を知っていますか？」「発光器官を見たことがありますか？」などといった少し専門的な質問

にも生き生きと答えてくれ、子供達がホタルの光だけでなくホタル自体にも興味をもち、慣れ親しんでいることがよくわかりました。

アメリカ人も日本人と同様にホタルに慣れ親しみ、その存在に郷愁を感じることも分かってきましたが、やはり一方で、日本人とアメリカ人のホタルに関する心象風景は少し異なるようです。日本人がホタルの光に「人里」といった景観を重ね合わせた郷愁を感じるのに対し、アメリカ人はホタルと景観を結びつけて考えることはあまりないようです。アメリカでは、家族との思い出をクローズ

アップする場面にホタルを用いたコマーシャルが流れていましたが、アメリカ人はホタルの光に家族との思い出とを重ねあわせ郷愁を感じているようです。

日本ホタルの会では、ホタルの保全を通して生態系全体を保全し、さらには文化的要素まで含んだ人里環境を残していくという大局的な視野をもつことを理念として掲げています。ホタルの背後にある郷愁の種類も鑑み、日本やアジア独自のホタル保全活動を広げていくことができたかと考えています。

.....

■読者投稿の募集

日本ホタルの会では、ニュースレターへの、皆様の投稿をお待ちしています。ホタル、環境保全などに関する調査、研究報告、各地域での活動報告をはじめ、読者の皆様の体験、ホタルとの出会いなどを紹介する「私とホタル」のコーナーに掲載する記事を募集しています。

ご希望の方は、題名、氏名等と簡単な内容を記載して事務局あてお送り下さい。

連載**ホタルの名前について (2)**

日本ホタルの会副会長 鈴木浩文

日本産ホタルの分類

日本のホタルについては、Thunbergが1784年に始めてキイロボタルを記載しましたが、日本でのこのホタルの生息は、それ以降確認されていないようです。1800年代後半からKiesenwetter, Motschulsky, Gorhamなどが記載を始め、1900年代前半には松村松年、岡田要らによって概要が明らかにされてきました。その後、琉球列島から多くの新種が発見され、中根(1981)、佐藤(1985, 1987)、大場(1986)によって4亜科9属42種にまとめられました。2000年代に入ってから、川島ら(2003)によってこれまでの分類学上の問題点が再検討されましたが、その後も新種の見出しは続き、現在、ホタル科については4亜科8属49種、イリオモテボタル科では1属1種に整理されています。

ここまでの間には、ベニボタルとして扱われていたものをホタル科に移動したり、属名が変更になったりすることで、同じ種が異なった和名で呼ばれたりするという混乱が生じてきました。そこで、川島ら(2003)を基に、近年の5つの文献について、和名の扱いを整理してみます。

1. 中根猛彦(1981)日本にいるホタルの種類 中根・大場著 ホタルの観察と飼育: 81-113 ニューサイエンス社
2. 佐藤正孝(1985)ホタル科 黒沢・久松・佐々治編 原色日本甲虫図鑑(III): 121-124, pl 20 保育社
3. 大場義信(1986)ホタルのコミュニケーション 東海大学出版会
4. 佐藤正孝(1985)ホタル科 平嶋監修 日本産昆虫目録: 315-353 九州大学農学部
5. Kawashima, Suzuki, Sato (2003) A check-list of Japanese fireflies (Coleoptera, Lampyridae and Rhagophthalmidae), Japanese Journal of Systematic Entomology 9 (2): 241-261.

日本産のホタル**ホタル科**

クシヒゲボタル亜科 文献 1, 2, 3, 4, 5

エダヒゲボタル亜科 文献 1, 3

この亜科名にはCyphonocerinaeが宛がわれていましたが、Jengら(1998)の指摘によって国際動物命名法上Psilocladinaeが亜科名として有効であることが確認されました。

Jeng, Yang, Sato (1998) Elytra, 26 (2): 379-398.

クシヒゲボタル属(*Cyphonocerus*) 文献 1, 3, 5

エダヒゲボタル属 文献 1, 3

この属の特徴は、触角の各節から2本の枝が出ていることです。この様子を櫛髭(クシヒゲ)と表現するか、枝髭(エダヒゲ)と表現するかという問題です。別の属にもクシヒゲボタルという呼び名があるために混乱してしまいます。文献5では、*Cyphonocerus*属にクシヒゲボタル属を宛がっています。この属には以下の種類が知られています。

1. ウスグロボタル(*Cyphonocerus inelegans*) 文献 1, 3, 4, 5

2. ヘリアカボタル(*Cyphonocerus marginatus*) 文献 1, 3, 5

ヘリアカクシヒゲボタル 文献 2, 4

3a. オキナワクシヒゲボタル(*Cyphonocerus okinawanus okinawanus*) 文献 2, 4, 5

3b. オキナワクシヒゲボタル 奄美亜種(*Cyphonocerus okinawanus amamianus*) 文献 5

文献3では*Cyphonocerus okinawanus*に和名は宛がわれていませんでした。オキナワクシヒゲボタルは、奄美産のものが奄美亜種として扱われたことによって沖縄産のものが基となる亜種として*Cyphonocerus okinawanus okinawanus*という亜種名を追加した表現になっています。

4. ムネクリイロボタル(*Cyphonocerus ruficollis*) 文献 1, 2, 3, 4, 5

ヒメホタルモドキ 文献 1, 3

5. クロクシヒゲボタル(*Cyphonocerus watarii*) 文献 5

6. ヤエヤマクシヒゲボタル(*Cyphonocerus yayeyamensis*) 文献 1, 2, 3, 4, 5

ムネグロボタル 文献 1, 3

2006 年度日本ホテルの会収支決算書
(2006 年 4 月 1 日から 2007 年 3 月 31 日まで)

収 入

科 目	種 別	金 額 (円)	割 合 (%)
会費	個人	379,000	
	公的法人	210,000	
	企業	100,000	
	小 計	689,000	61.4
その他	寄付、イベント参加費等	433,674	
	小 計	433,674	38.6
当期収入合計		1,122,674	100.0
前期繰越金		1,158,086	
収入合計		2,280,760	

支 出

科 目	種 別	金 額 (円)	割 合 (%)
印刷	ニュースレター他	154,140	
	小 計	154,140	19.4
通信	電話	34,773	
	郵便	122,760	
	ホームページ	79,548	
	その他	30,539	
	小 計	267,620	33.6
需用費	消耗品	16,204	
	食料費	40,750	
	小 計	56,954	7.2
家賃		157,500	
	小 計	157,500	19.8
手数料	郵便振替	8,660	
	振込手数料ほか	4,515	
	小 計	13,175	1.7
その他	会場費、会議費ほか	146,990	
	小 計	146,990	18.5
当期支出合計		796,379	100.0
当期収支差額		331,045	
次期繰越額		1,484,381	

本会計報告は、2008年3月22日に監査を受け、報告のとおり相違ないことが確認されています。

■日本ホタルの会談話会報告

2008年3月22日(土)東京都多摩動物公園におきまして、同動物園と共催で「日本ホタルの会談話会“ホタルはなぜ光るの？ どうやって光るの？”」を開催しました。この催しは、当会の新しい取り組みとして、参加者が実験でホタルの光を再現する体験型で実施いたしました。

当日は、春のあたたかな日差しに恵まれ、動物園を訪れる方も多く、小学生を中心に予定に近い約50名の参加がありました。参加者の中には、小学生のグループや親子連れに混じり、若いカップルの姿も見られました。

会は、多摩動物公園の教育普及担当の方の司会進行で始まり、はじめに日本ホタルの会からあいさつをさせていただき、生きものであるホタルが、なぜ光るのか、どうやって光るのかを実験で体験し、ホタルの気持ちを感じてほしいという体験型イベントの趣旨を説明いたしました。続いて、多摩動物公園から、同園で飼育している光生きものについてスライドを使った紹介があり、参加のみなさんも、多摩動物公園でさまざまな光る生きものが飼育されていること、光る生物が意外に多様であると感じたのではないかと思います。

次に、日本ホタルの会から、ホタルはなぜ光るのか、生きて行くための戦略に光をどう利用しているかということ、そして、どうやって光っているのか、さらにそれをどういう実験で再現するのかを解説しました。

いよいよ、お待ち兼ねの実験です。参加者全員に試薬の入った試験管とスポイトが配られると、参加者の顔にわくわく期待する表情が浮かびました。明かりを消して、スポイトにとった薬品を入れると、試験管が青く光り、部屋のあちこちで歓声が上がりました。その後も二種類の光を作り、最後にホタルの発光を真似た光のコミュニケーションのゲームでイベントを終了しました。

今、学生の理科離れが進んでいるといわれています。科学者になって研究をしたい、何かを生み出す発明家になってみ

たいという意欲を持った人間が少なくなっているのではないかと懸念されています。しかし、実験に参加した小学生の顔は輝いていました。不思議なことに疑問を持ち、光を生み出した瞬間に感動する感性は失われていません。もっと体験する機会が増えれば、科学の持つ魅力に気づいてくれるのではないかと思います。今回の試みは、初めてづくしであったため、いたらない点もありましたし、改善すべき点も多くありましたが、こうした試みの必要性を強く感じました。当会では、これからもこの活動を続けて行きたいと考えております。イベントとしての完成度が高まれば、実施プログラムの作成や出張イベントなどを検討したいと思います。

最後に、共催していただきました東京都多摩動物公園に感謝いたします。

事務局からのお知らせ

理事会報告

2008年1月12日及び3月22日に理事会を開催し、2008年度役員体制、2008年度活動計画などについて協議しました。

ホタルのニュースレター（第44号） 2008年4月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

197-0011 東京都福生市福生 487

日本ホタルの会事務局

TEL & FAX : 042 - 530 - 2111

e-mail : inoue@nihon-hotaru.com

URL : <http://www.nihon-hotaru.com>



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

印刷 文明堂印刷株式会社

239-0821 神奈川県横須賀市東浦賀町 1-5

TEL : 046-841-0074 FAX : 046-841-0071